

■ 次期戦略の期間 2025年度 ~ 2029年度

- これまでの戦略の進捗
- ・合計特殊出生率は**1.46**に低下したが、**全国上位の出生率を維持**。令和4年に「ふく育県」を宣言し、子育て支援や結婚応援を強化
[合計特殊出生率 2019年 1.56 (11位) → 2023年 1.46 (6位)]
 - ・コロナ禍により働き方や暮らし方が変化するなど、地方への関心が高まり、**社会減が改善**。一方、大学や企業が大都市に集中する社会構造が要因となり、**社会減が再び拡大傾向** [転出超過数 2019年 2,832人 → 2023年 2,607人]

■ 福井県の人口減少の特徴 [婚姻件数 2000年 4,582件 → 2023年 2,620件 (△42.8%)]

- ・若い世代（特に**女性**）の**県外転出**により**若者の人口が減少**。県内の**未婚率**は全国水準より**低いもの**の、**婚姻件数は減少傾向**。
- ・人口あたりの未婚者数の少なさ、夫婦あたりの出生数の多さは全国水準より高い一方、**結婚や出産の理想を叶えられていない人も一定数存在する**。

出生数の増減

〔県民の声〕

【社会】
・子どものころはつながりの強さが嫌なこともあったが、大人になってみると、コミュニティの強さもいいと思う (30代・女性)

・干渉すぎない地域コミュニティなら満足度は高い (30代・男性)

【仕事】
・子どものために仕事を続けられない人もいる。ブランクがある人でも安心して働けるプログラムや紹介があると良い (30代・女性)

【家庭】
・3人の子どもの父親として、妻には苦勞をかけてきた。多くの時間を子どもと共有できるようお金と時間の両面の支援を (40代・男性)

出生数の増減要因

若い世代の人口

方向性①

婚姻数

方向性②

夫婦のもつ子どもの数

方向性②

福井県の現状

転出超過数は20-24歳が全体の半数以上を占める。うち女性が約6割

福井県の 転出超過数 (R1-R5合計)	男性	5,312人	女性	7,062人
	〔うち 20-24歳 〕	2,757人	〔うち 4,008人 〕	4,008人

未婚率は全国水準より低い。一方、結婚したいと考えている独身者は30代後半で約3割

50歳時未婚率 (生涯未婚率) (令和2年)	全国	28.3%	福井県	23.4% (全国2番目に低い)
	男性	17.8%	女性	12.1% (全国最小)

結婚意欲のある独身者の割合 (年代別) (令和6年)

20-24歳	75.9%	25-29歳	71.9%
30-34歳	62.6%	35-39歳	30.8%

年齢上昇に伴い結婚意欲は低下傾向
出典: 総務省「国勢調査」、福井県「福井県子ども・子育てニーズ調査」

夫婦の持つ子どもの数は全国水準より高い。一方、4割は希望の子ども数を叶えられていない

有配偶 出生率※ (令和2年)	全国	74.6人	福井県	77.6人 (全国15位)
	有配偶出生率			

※有配偶出生率: 15~49歳の結婚している女性1000人あたり出生数

理想の子どもの数を
持てていない割合
(40代)
(令和6年)

理想: 4人以上	66%	理想: 3人	55%
理想: 2人	31%	理想: 1人	9%

40代既婚者の**44%**が理想より少ない子ども数
出典: 総務省「国勢調査」、厚生労働省「人口動態統計調査」、福井県「福井県子育て意識調査」

■ 今後の対策の方向性

【方向性①】 若い世代（特に**女性**）に**いかに県内定住を選んでもらうか**（県内進学・就職、U・Iターン促進等）

【方向性②】 県内定住を選んだ若い世代の**結婚・子育ての希望をいかに叶えるか**（働き方、結婚～子育て支援等）

■ これからの福井県に求められること（政策を検討する上で重視する観点）

- | | |
|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・地域社会 … 多様性を楽しめる社会 ・働き方 … 生きがいと働きがい | <ul style="list-style-type: none"> ・家庭 … 結婚・出産の希望がない、子育てを楽しめる社会 ・関わりしろ … 皆とつながり続ける |
|--|--|

地域社会 多様性を楽しめる社会

- ・ 家庭・職場・地域の各場面で、アンコンシャス・バイアス（無意識の思い込み）に気づき、考え、理解しあえる機会を作ること
- ・ 自分に対しても相手に対しても「こうあるべき」と気負わず、「違い」を楽しめる雰囲気を作ること

働き方 生きがいと働きがい

- ・ 希望する生き方や働き方が多様化する中で、理想のライフスタイルを実現できるような環境を整えること
- ・ 男性だから、女性だからと関係なく、ジェンダーレスに仕事をし、人生を楽しめる社会であること

家庭 結婚・出産の希望がかない、子育てを楽しめる社会

- ・ 結婚・出産の希望がかない、それぞれが思い描く家族像を実現できるよう、地域・社会が家庭を支える存在であること
- ・ 子育て中の家族が子育ての楽しさを実感し、若者が子育てに対しよりポジティブなイメージをもてる世の中であること

関わりしろ 皆とつながり続ける

- ・ 自身のアクションが未来を創る「地域との関わりしろ」をつくり、幼いころから地域への愛着を深めること
- ・ 県外に出た方が、様々なライフイベントのたびに、福井県に戻りたくなるよう、継続的につながっていること



暮らしの喜びや幸せを実感できる社会へ

- これまで実施してきた施策の成果などを踏まえつつ、さらなる意見交換を行いながら、次の方向性をもって施策を検討

新たな観点

現戦略から
継続する観点
(現戦略を再構成)

1. 若い世代に選ばれる「地域スタイル」の構築

- (主な取組みの例) ① 地域への愛着を育む教育 ② アンコンシャス・バイアスへの理解促進
③ ウェルビーイングの向上 ④ 若者参加のまちづくり

2. 「働きがい+働きやすさ」の魅力ある仕事の創出

- ① 若い世代の経済自立・安定所得向上につながる経営改革支援
② 女性が望む雇用づくり・L字カーブの解消・男性育休の拡大
③ 時間や勤務地にとらわれない多様な働き方の促進

3. 結婚・出産・子育ての「希望が叶う社会」の実現

- ① 出会いの機会拡大・恋愛への後押し
② 結婚・子育てへのポジティブなイメージづくり
③ ふく育さん・ふく育タクシー・家事の外部化促進など地域での子育て支援

4. 「県内進学・就職」「U・Iターン」の徹底応援

- ① 学生時代からの継続的なつながりづくり
② 地元進学・地元就職の促進
③ 体験を通じたU・Iターンの促進